

[概要]

本研究では、富山大学に在籍する外国人留学生を対象としたインタビュー調査から、同国や同地域出身の外国人留学生の間で「場所」が構築されていることを明らかにし、同じ留学生でも国籍によって構築される「場所」に差異が生じることを検討することを目的として調査を行った。調査の結果、今回インタビュー調査を行った中国、マレーシア、台湾出身の外国人留学生の中では、中国出身の留学生の間で「場所」が構築されていた。富山大学に在籍する外国人留学生を国籍別に見てみると約半数を占めるのが中国出身の留学生である。多くの中国出身の留学生が在籍していることによって、学部や学年間で授業や日常生活に関する情報を共有するなどした連帯が可能となり、「場所」が構築されていた。従来、母国を離れて生活する外国人を対象とした研究では、エスニック事業所や同胞間の共同組織の設立といった可視的にその集団の連帯を把握できる対象が扱われてきた。今回の調査を通して、可視的な組織が設立されていなくても同国・同地域出身者で連帯し「場所」を構築していることが明らかとなった。しかし、今回の調査ではインタビュー調査を行ったインフォーマントの人数が6名であったことから、外国人留学生の一般的な傾向を示すことはできなかった。